

1 研究内容1「全ての子どもたちの可能性を引き出す『個別最適な学び』と『協働的な学び』」

第1回（5月12日）

（1）協議の内容について

動画「子どもの主体的な学びを実現する中学校でのクラウド活用（春日井市立高森台中学校）」を全員で視聴し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する授業のイメージを共有した。

○ 動画における授業へのイメージ

- ・生徒が、自分のペースに合わせて学習している。
- ・生徒同士の対話により、授業が進んだり、課題解決したりしている。
- ・アウトプットを中心とした主体的な学びになっている。
- ・端末の機能を存分に生かしている。



○ 動画のような授業においてポイントとなりそうなこと

- ・教員間で授業のイメージを共有すること。
- ・一人一人が学習に向かうための目的意識のもたせ方。
- ・児童生徒のコメントの生かし方。
- ・個人のペースで進められるが、それが難しい子どもへの支援や子ども同士の助け合いが必要。

動画「子どもの主体的な学びを実現する中学校でのクラウド活用（春日井市立高森台中学校）」

（2）第2回目の委員会に持ち寄る「授業の構想」について

協議で共有した子どもの学びの姿をイメージし、すぐに、もしくは工夫したら取り組みそうなこと、この学年のこの単元ならできそうだとしたこと等、「授業の構想」をし、第2回目の委員会のときに交流できるよう、準備をする。

第2回

（1）協議の内容について

○ 持ち寄った授業構想の共通点や取り入れたいこと

- ・子どもと教員間で、課題やゴール、単元（題材）計画、目指す子どもの姿等の「共有」をすること。
- ・子どもが体験しながら、「なるほど」と納得したり、実感したりするような授業にすること。
- ・子どもの問い「なぜ？」を引き出すような授業にすること。

○ 収集する実践事例について

- ・キーワード（「課題」、「ゴール」、「単元（題材）計画」、「見通し」等）を記載する。
- ・「個別最適」に、「協働的」に、主体的に学んでいる子どもの姿、子どもの反応、ポイントを記載する。
- ・ICTを活用することでのよさ（情報を共有すること、協働すること等）が分かるようにする。

（2）第3回目の委員会までに収集する実践事例について

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業のイメージがもてるように、次の内容を踏まえて実践事例を持ち寄ってもらうこととした。

○ 実践事例の収集方法

- ・形式は問いません。
- ・現在、各研究所やセンターですでに作成しているものを活用していただいて構いません。その際は、「実践事例に記載したいこと」を参考に、内容を加除修正いただければと思います。

○ 実践事例に記載したいこと

- ・単元（題材）の「見通し」をどのようにもたせたらよいかについて
→「課題」や「ゴール」の設定の仕方、単元（題材）計画の提示の仕方など
- ・「研究内容1」に係る子どもの学びの姿や子どもの反応について
→実践で見られた子どもの様子が分かるように、写真や吹き出し等を活用
- ・「研究内容1」に係る子どもの学びの姿を引き出す教師の支援や働きかけ、環境の整備について
→子どもの学びを深めるための教師の役割に関することや工夫など

第3回（1月12日）

（1）協議の内容について

○ 特徴やよさの共有について

- ① 事例が検索しやすくなるため、ア～ウの3つに分類することでよい。
- ② 説明の文章がなくても分かるような工夫があるとよい。
 - ・道研から示した3つの視点の中で、どの視点が分かりやすいかを記載する。
 - ・吹き出しを活用し、ポイントを掲載する。
 - ・写真等を活用する。 など

○ 次年度以降の研究について

- ① 今年度の成果として、「今年度協議された内容とその過程」及び「収集した実践事例」を道研連 Web ページに掲載する。
 - ・道研連 Web ページに掲載する際、写真、学校名など、掲載してよいかどうかの検討が必要である。
 - ② 第18次共同研究の概要について、「指導案バンク」ではなく「実践例バンク」という名称でもよいのではないか。
 - ③ 「指導案バンク（実践例バンク）」においては、多くの先生方に見ていただくための発信の仕方に課題がある。
- ②③の御意見を受け、第18次共同研究【概要】を修正した。
- ・「指導案バンク」を「実践事例バンク」に修正
 - ・リーフレットは、「実践事例バンク」を普及するためのものとして作成することに修正

（2）掲載する実践事例について

掲載する実践事例を多くの先生方が活用しやすいよう、第3回共同研究推進委員会での協議を基に、次のとおりまとめることとした。

- 実践事例は、ア～ウに分けて道研連 Web ページに掲載し、事例を選択しやすいように事例の特徴等を記載する。
- 道研から示した3つの視点の中のどの視点が分かりやすいかを、吹き出し等を活用して示し、工夫したことやポイントが分かりやすいようにする。

上記を踏まえ、次のとおりに、事例を加除修正し、送付していただいた。

【実践事例の加除修正の仕方】

① ページ数

ア) 単元の流れが分かるもの

- ・指導案形式については、ページ数は問わない。

イ) 一単位時間の流れが分かるもの

- ・一単位時間の流れが見えやすいよう、1～2ページにまとめる。

ウ) 子どもの学びの姿（学習活動）が分かるもの

- ・学年や教科ごとに、なるべく1ページにまとめる。
- ・学校全体で取り組んでいることをまとめた場合や、ICTの活用でまとめたい場合等、1ページに収まらない場合は、ページ数は問わない。

② 実践事例に記載すること

＜記載内容＞

- ・作成機関：「〇〇教育研究所」等、左上に記す。
- ・学年：「小学校第〇学年」、「中学校第〇学年」、「小学校全学年」等の書き方で示す。
- ・教科：「国語」、「国語と社会での教科等横断的な授業」、「特別活動」、「教育課程外の取組」等の書き方で示す。
- ・単元（題材）名：「数と式」、「化学変化」等、学習指導要領解説に記載の言葉で示す。※任意
- ・ねらい（目標）

<3つの視点について>

- ・青い吹き出しを使って、実践事例のポイントとなる部分（特に見てほしい部分）を示す。
- ・その際、「○どの視点か」と「・どのような工夫か」が分かるように、吹き出しに記載する。

○子どもが自分たちで学び取る授業

- ・学習スタイルを選択できるよう、~~や~~を事前に準備し、子どもに提示した。

【協議Ⅰ】研究内容Ⅰについて

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の 一体的な充実に向けて

- 授業において大事にしたいこと
 - ・子どもが「自分（たち）」で学び取る授業
 - 目的に合わせた端末の使い方や学習スタイルの選択等、学び方を学べる工夫
 - ・子どもの「興味・関心」や「問い」を大事にした授業
 - 必要感のある課題設定や単元（題材）計画、教師の発問や声かけの工夫
 - ・子どもが安心して、進んで取り組める授業
 - 学習の土台づくり（望ましい人間関係の構築、学習ルールや基本的・基礎的な知識及び技能、ICTのスキル等）

○子どもの「興味・関心」や「問い」を大事にした授業

- ・教師は「~~」、「~~」などの声かけをし、子どもの「問い」から~~~に繋がるようにした。
- ・必要感をもてる課題設定となるよう~~~と工夫した。

<留意点>

- ・学校名、指導者の名前は記入しない。
- ・写真は、顔が分からないようにする。また、名前等の個人を特定できるような情報が写っていないか確認する。

2 研究内容2「子どもの成長を支える連携・協働体制の構築」

第1回（5月12日）

第2回目までに、各教育研究所や研修センターにおいて、すでに取り組まれている事業内容の実態把握を行うこととし、研究の進め方について説明をした。

第2回（10月20日）

（1）協議の内容について

○「連携・協働」することについて

- ・各研究所やセンターの悩みや課題、蓄積されたデータの共有がしやすい環境の整備ができるとよいが、どのように活用していくのかは課題である。
- ・道研を主軸にしたクラウドの整備、遠隔システムに限らず、即時性のある連携体制の構築等はいできないだろうか。

（2）「連携・協働」に係る構想について

各教育研究所・センターで共有できることや資料について構想し、持ち寄ることとした。

○ 共有する構想の例

- ・今年度開催した〇〇の研修会は、管外の研究所やセンターにも公開できそうだ。
- ・〇〇に関する学習会は、近隣の研究所やセンターにも呼びかけて合同開催したい。
- ・現在作成中の〇〇に係るパンフレットを共有したい。 など

第3回（1月12日）

（1）協議の内容について

○ 実現可能なこと

- ① すでにオンラインで実施している研修会については共同で研修を行ったり、授業公開については道研連加盟機関に情報を共有したりなど、大きな負担なく行いやすいのではないかと。
- ② 道研を含め、ホームページを持っている教育研究所やセンターについては、相互リンクを促すことや、相互リンクが分かりやすいようにする等の工夫をするとよいのではないかと。
- ③ 他地域の先生方と交流したいという気持ちがあるので、地域ごとのグループで繋がれるようなシステムが構築されるとよいのではないかと。

○ その他の意見や気付いたこと等

- ・①について、それぞれが行っている研修会や授業公開を道研連加盟機関と共有する際、案内が多くなってしまうと参加したいものを見つけにくくなってしまったため、提示の仕方を検討する必要がある。
- ・①について、現在、周知の仕方はメールのみが多いため、案内や周知の仕方を検討する必要がある。
- ・連携・協働体制を構築する際、働き方改革への考慮が必要である。